

平成 28 年度 第 3 回 淀川区子ども教育会議  
議事要旨

日 時 平成 28 年 9 月 7 日 (水) 19:30～21:30

場 所 淀川区役所 5 階 501 会議室

出席者 委 員 : 大中 智佳 氏

久保 みのり 氏

坂井 肇 氏

佐藤 琢二 氏

泉水 清治 氏

西川 勇 氏

藤本 好一 氏

増田 裕子 氏

松村 祥 氏

横山 和徳 氏

事務局 : 淀川区担当教育次長 榊 正文

淀川区教育担当部長 渋谷 靖

淀川区政策企画課長 西 徹

淀川区政策企画課長代理 昇 辰雄

大阪市立田川小学校長 江草 啓祐

関係者 : 大阪市立中央図書館 利用サービス課長代理 長谷部 絵理 氏

大阪市立淀川図書館長 田野 晶子 氏

有識者 : 西岡 和昭 氏

吉成 佳世子 氏

傍 聴 : 2 名

《会議資料》

資料 1 淀川区の新しい図書館について

## 議題1 淀川区の新しい図書館について

### (区長より説明)

新しい図書館について理解を深めていただくため事前に資料を送付しているが、これまでの構想の具体化としてレイアウト図等を追加したので、参考にご討議いただきたい。

「赤ちゃんの泣き声がしても構わないといったコンセプトだが、本をよく読みたいという利用者のことも考慮に入れるべき」や「『親育て』や『子育て』を地域で行うという流れもあり、その空間が図書館であっていい」など、前回頂いた様々な角度からのご意見を集約し論点にまとめている。

新しい図書館は情報の拠点として、市民力や地域力を高める地域の情報センター。地域図書館は、市民がいろいろな情報を通じて他者と対話する能力を養うことのできる場として機能することが必要だ。

現在討議されている次期生涯学習計画の基本コンセプトは「ひと・まち・まなびをつなぐ生涯教育」といったもので、前回会議で説明させていただいた「淀川・図書館のまち構想」の実現に向け、象徴・実践の場として新図書館を作りたい。時代が急速に進むなか、地域図書館のあり方の再定義が必要だと考えており、あらためてご意見を頂ければと考えている。

資料では市民参画の創造やワイガヤ交流のほか、特に営業時間について課題提起し、カフェなどを整備には民間資本やサービスの導入が必要だ。何もかもやると税金で負担するコストがかさむので、どうすればいいのか工夫しなければならない。

旧庁舎の跡地は、もとはすべて売却して新庁舎の建設費用に充当することが決められており、市の収入に貢献しなければならないことや、敷地の容積率が600%と高く図書館だけでは使いきれず市のコンセンサスを得るためにもできるだけ売らない敷地を小さくすることが必要。

図は2階建ての構造で、2階部分が吹き抜けになっており、イメージとして1階がワイガヤの空間、2階が吹き抜けになっているので周辺では1階のワイガヤ感が伝わってくる。2階には自習や静かに読書したい方のための静かな閲覧室、ミニシアターなどを考えている。

1階のマガジンストリートには軽めの雑誌などが置かれ、カフェスペースは民間で運営していただくといったイメージ。目玉はワイガヤのオープンスペースで、本を通じての自由なおしゃべりや討議、イベントスペースになる。今のところこのような配置でどうかと考えている。

### (委員より意見)

- 生徒がまるごと入る1教室のスペースでICTを活用した国際交流などができるスペースがあればありがたい。公立の小・中学校は優先的に使え、自分で本を使って調べ物ができると、淀川なら無料で子どもたちが学習できると発信できる。
- 自宅で勉強に集中できない、できる環境にない子どもたちのスペースを確保してほしい。
- すべての子育てのために必要な施設を集約し、その中に図書館があるというカタチのほうがいいのでは。
- シッター付きのチャイルドスペースがあるとうれしいという意見があった。子どもを見てもらったり、読み聞かせや紙芝居、人形劇を行ったりといったカタチで市民ボランティアが関わることができれば良いのでは。
- 会議室や多目的室については子どもの居場所という視点で、月に何度かでも子ども食堂を開設できないか。

- カフェや書籍販売をするなら、子どもたちに企画やメニュー開発、書籍なら販売員など、商売を成し得るような実践する場を与えては。地元でお金を循環させるための実践の場とするほうが、盛り上がりも生まれる。
- 子どもだけでなく 10～30 代のこれからの未来を創る若い世代でいろんな議論をし、経済やビジネスも含め学者を生み出す場になれば。青少年や次世代の育成というような、子育てのもう少し上を絡めていけるような場にできないか。
- 若い世代の人たちは、夜もそうだが土日集まりやすいかと思うので、土日は若い人が借りやすいとか、イベントでも優先的に借りることができるなど差別化があれば良い。
- 子育ても大切だがジュニアリーダーが育つ仕掛けがあっても良い。10 代や 20 代の方が集まって議論を戦わせる場があっても良いのでは。
- 市町村では高齢者施策や幼児施策は進むが、中間層の若者はいつも取り残される。いかに十三に若者たちを呼ぶかで、図書館の利用価値が出る。